



やさしく
かしこく
たくましく

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

11月になりました。秋らしい少々冷たい風も吹いています。この学校便りも49号。頑張って発行してきましたが、最近なかなかネタが浮かびません。ネタ切れ間近のそんな私の心にも冷たい風が・・・ピンチです。そこで今回は、一ヶ月程前になりますが、10月上旬の集会にて、子ども達に話した内容をご紹介します。

『自分の可能性にふたをしない限り、年齢は関係ない。』

この言葉は昨年の4月1日から将棋の「プロ棋士」になられた広島の今泉 健司さんの言葉です。

今泉 健司さんは、小学2年で将棋を覚え、中学2年生、14歳でプロ棋士養成機関「奨励会」に入会以来、何度も挑戦と失敗を繰り返し、27年の月日をかけて、とうとう「プロ棋士」になるという夢を叶えられたのだそうです。集会では、この今泉さんの話題をもとに話をしました。

【10月6日 東っ子タイム講話 要旨】

将棋を知っていますか。野球やサッカーと同じように将棋にもプロがいる。昨年、今泉健司さんという方が、将棋のプロ、プロ棋士になった。その時の年齢は41歳。中学2年、14才から挑戦しプロになるのに27年かかった。27年がかりで夢をつかんだ。「夢を持とう」「夢を叶えよう」とよく言うが、現実には厳しく大変で、叶わないことの方が遥かに多い。大抵の人は途中であきらめてしまう。何年も何年も上手いかなければ尚更。でも、今泉さんはやめなかった。あきらめなかった。ずっと努力と挑戦を続け、27年かけて夢を叶えた。



「自分の可能性にふたをしない限り、年齢は関係ない」

これは今泉さんが言った言葉。可能性とは「実現できる見込み」のこと。何かが出来るようになったり、わかるようになったり、何かになれるりする予想ということ。「可能性にふたをする」とは、何かをやる前、挑戦する前、あるいはやり遂げる前から、「自分には出来ない」「自分には無理だ」と決め付けて、挑戦しなかったり、挑戦してもすぐにやめたり、あきらめたりすること。普通誰でもそう思ったりする。みんなもそう思ったことがあるかもしれない。でも、今泉さんは違った。そう思わなかった。自分の可能性を信じた。27年間、あきらめずに努力を続けた。だからこそ、念願のプロ棋士になれた。

他にもそんな人がいる。例えばメジャーリーグのイチロー選手。若い時から大活躍だったが、今、42歳。普通ならスポーツ選手にとって42歳は、活躍することが難しい年齢。でも今年も活躍してるし50歳までやりたいといっている。サッカーでは、三浦カズ選手49才がいまだに頑張っている。スキーのジャンプ競技では葛西選手が42歳で、レジェンド、伝説と言われている。ただ歳を取ったからと簡単にあきらめず、いくつになっても、まだまだやれると考え行動し努力する人達だ。

年齢だけではない。オリンピックの後に、パラリンピックが行われた。いろいろな障害があっても、「自分にはできる」という強い思いをもって頑張る人達である。その中でも印象的だったのが南アフリカの水泳男子のアフマツ・ハシムさん。この人は右足のひざから下が無い。10年ほど前に弟を助けるためにサメに食いちぎられた。なのにこんなことを言っている。「サメのおかげでパラリンピック選手になれた。サメにありがとうと言いたい。」不幸なことが起きても、そのことを前向きに捉える考え方がすごい。

何歳になっても、「自分はまだやれる」「まだ上手になれる」と自分の可能性にふたをしない人達である。どんな障害や困難があっても、それに負けることなく、自分を信じ、未来を向ける人達である。

みんなはまだまだ若い。たっぷり人生の時間がある。その分、大きな大きな可能性があるということ。大きな大きな未来がある。「僕にはできない、私には無理だ」なんて思って、自分で自分の可能性にふたをせずに、どんなことも、どんどん挑戦して、簡単にあきらめず、努力してほしい。